

「参考 1-1 b、c」に記載があるように、立地適正化計画では自然災害リスクがある地域に居住を誘導しないこととなっている。しかし、本市においては自然災害リスクが極めて少なく、災害の危険性により居住誘導区域から除外されるべき地域はない。

自然災害発生時における「災害に強い鶴ヶ島」を、データや資料等に基づき以下に示す。

① 土砂災害警戒区域

近年、集中豪雨等の被害は大きくなり、近隣市町でも被害が出ている。しかし、本市には山間部がなく、土砂災害警戒区域の指定もされていない。なお、土砂災害警報は過去一度も発令されていない。

② 洪水浸水想定区域

本市には大きな河川が存在せず、水路や都市下水路が数本あるのみであり、洪水浸水想定区域指定された範囲は極めて狭い。しかし、坂戸市を流れる高麗川がはん濫した場合、最大想定で羽折町の一部が区域指定されている。

このため、想定外の集中豪雨等で内水による浸水被害が出る可能性はあるが、大きな被害は生じないものと想定される。

羽折町地区の洪水浸水被害想定

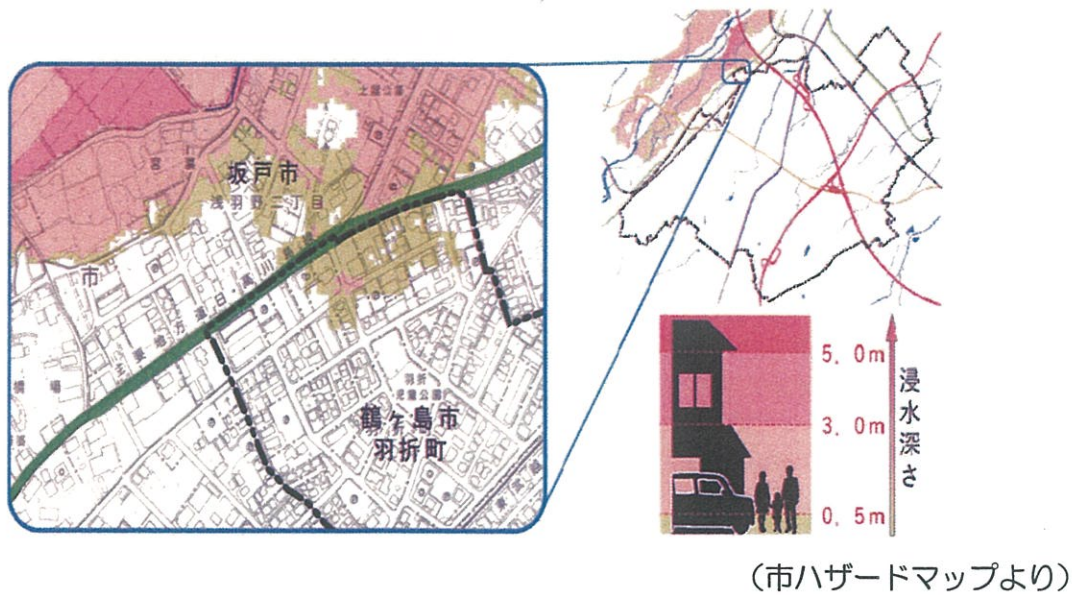
浸水深が0.5m程度で面積も小さい(0.96ha)

市面積に占める割合：0.05%

指定には継続浸水時間がなく、浸水したとしても短時間で水が引くものと想定される。

洪水浸水想定区域図

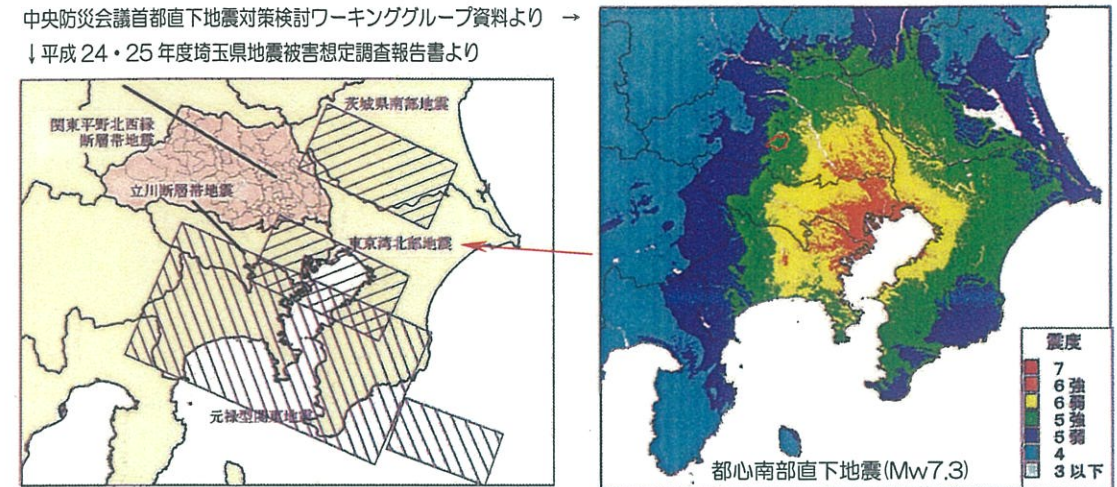
この洪水浸水想定区域図は、大雨が降り続いて(3日間に632mm)坂戸市を流れる高麗川がはん濫し、洪水が発生した場合の浸水状況をシミュレーションにより予測したものです。



③ 地震被害想定

本市で想定される地震被害として、次の5つが想定される。

- 東京湾北部地震 (5強) 30年間で「70%」
- 茨城県南部地震 (5強) 30年間で「70%」
- 元禄型関東地震 (5強) 30年間で「ほぼ0%」
- 関東平野北西縁断層帯地震 (6強) 30年間で「0.008%以下」
- 立川断層帯 (6弱) 30年間で「2%以下」



東日本大震災時の本市の震度は5弱であり、埼玉県内ではさいたま市など県東部で震度5強を記録している。発生確率が低いものについても、地震が起こらない訳ではない。

また、液状化については、本市ではこれまで確認されておらず、液状化リスクは市全域において「極めて低い」と診断されている。(平成24・25年度埼玉県地震被害想定調査報告書より)

- 参考 鶴ヶ島市直下型地震 → 関東平野北西縁断層帯地震(震度6弱~6強)
※ 本市の被害想定が最大の地震「全国どこでも起こりうる直下型地震」

